

## カナダ・EU・中国主催閣僚会合 議長サマリー仮訳

2017年9月16日

カナダ、中国及び欧州連合は、パリ協定の完全な実施に関する議論を前進させ、世界的な行動に対する継続的な政治的コミットメントを示すために、気候行動に関する閣僚会合を開催した。

34の主要経済大国及び気候変動に関する他の主要国等の代表がカナダのモントリオールに集った。フィジーのナザト・シャメーム・カーン大使が同会合の司会を務め、アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、カナダ、チリ、中国、エクアドル、エジプト、エストニア、エチオピア、EU、フィジー、フランス、ドイツ、インド、インドネシア、イタリア、日本、モルディブ、マリ、マーシャル諸島、メキシコ、モロッコ、ノルウェー、ポーランド、韓国、ロシア連邦、ルワンダ、サウジアラビア、南アフリカ、スペイン、トルコ、英国及び米国の代表が出席した。

環境と経済が密接に関連しており、野心的な気候行動は環境を保護し、クリーン成長及び持続可能な開発を促進し、雇用を創出し、及び人の健康を改善することを認識し、多くの出席者が、世界的な努力が重大な岐路にあることを強調し、パリ協定の完全な実施に対する強いコミットメントを表した。さらに、多くの出席者がパリ協定は後戻りできないものであると述べるとともに、すべての出席者がパリ協定は再交渉できないと述べた。米国は、パリ協定から離脱する予定であるが、米国により有利な条件の下でパリ協定に再び関与すること（re-engaging）にオープンであることを再確認した。

投資家を含むすべての主体に明確さと確実性を与えることの重要性を認識し、多くの出席者は、パリ協定作業計画を2018年に完了するという政治的なコミットメントを認めた。多くの出席者は、気候行動に対する世界的なコミットメントにおいて、引き続き信用を築き、自信を確固なものにすることを手助けするために、パリ協定並びにその方法、手続及び指針の重要性を表した。COP23における技術的な交渉はパリ協定の精神の上に積み上げられるべきであり、パリ協定の義務の実施においてすべての締約国の助けとなるような方法、手続及び指針に関するこれまでの合意に対して、建設的かつバランスの取れたものであるべきことが強調された。

締約国との協議に基づき、2018年の促進的対話のための手順を決める際のモロッコ及びフィジーのCOP議長としての努力に対する支援があった。同対話は、非政府主体との協力も含め、締約国が進捗状況を確認し、更に野心を高めることの助けになるべきことがあらためて表明された。

プレ2020行動の重要性及び現在の努力の上に更に努力を重ねる必要性が認識された。また、多くの出席者は、資金、技術及び能力開発支援の重要性を指摘し、進展

が見られることを認めた。さらに、多くの出席者は、世界的な気候行動に関するマラケシュパートナーシップに対する自らの支援、これらの目的を達するために地方政府、先住民や地域のコミュニティ及び無所属の主体が不可欠であること、及び、多面的なプロセスが引き続きより包括的なものとなり、かつ、男女平等の重要性を認めるものであるべきことを強調した。

教訓と優良事例を共有するために、多くの出席者は、排出を削減し、気候変動に適応するための自国のアプローチ及び経験を強調し、これらの努力及び自国が決定する貢献の実施に対する変わらぬ決意を広く強調した。低炭素社会及び強靱な経済への世界的な移行を加速させるためには、今行動を起こすことが重要であることが強調された。多くの出席者は、そのことに関する市場の機運及び活動を歓迎し、カーボンプライシングの重要性を強調した。

ともに前進すること及び進展を示すことに対するコミットメントの観点から、気候行動に関する閣僚会合の前向きで開かれた精神を進展させ、パリ協定作業計画及び2018年促進的対話の完了を通じたパリ協定の実施に関する交渉官の作業を進展させるための強いメッセージが交渉官に送られた。カナダ、中国及び欧州連合は、このイニシアティブ及び欧州において2018年に次回会合を共催するとの提案に対して、出席者から謝意を表明された。